職場から春闘の総括を

炭労の春闘は超低額で妥結しましたが、すでに中闘の総括（炭労新聞参照）も出され、五月十三日の委員会で報告されました。委員会の中では各委員から「人並みにはほど遠い、不満だ」「総括が不十分、産別闘争をどう進めるのか」「指導性が問われる」などの意見が出されましたが、いずれも深刻なもので、各職場でも不満が渦巻いています。本紙に届いた意見などを紹介します。さらにご意見を寄せて下さい。

八三春闘をかえりみて

一分会（四山）　宮崎　勝

五月も中旬となり、春闘は大手の約九割が解決、中小は約七割が未解決だが大勢は終結の方向にある。

五月十日現在、日経連調べによると大手の妥結状況は、平均アップ率四・三六パーセント、金額にして八千八百七十九円となっている。

このような春闘の結果について日経連は、企業労使の非常な努力に敬意を表するといっている。

つまり、敬意とは『春闘が資本の思いどおりになった』ということである。

不満だらけの職場

今年の春闘は要求の時点で不満続出だった。それは七パーセントという低額要求だったからである。

それでも職場では、七パーセント全額獲得めざして闘いに立ちあがった。腕章をつけ、鉱門ビラを配り、職場集会を開き、長期闘争に備えた。

ところが結果は、われわれを裏切った。

① 一方百七十五円（二・四パーセント）でめしが食えるか。

② 炭労がいう人並みの生活ができるのか。

③ 資本はわれわれを馬鹿にしているが、炭労中執も同じだ。

④ 暗い坑内で汗は滝のように流れ、よだれを流し、冬も氷をかじり、仲間は殺され、傷つき、それでも賃上げは一日たったの百七十五円か。馬鹿にするな。

これが職場の声である。

大衆と共に闘ってくれ

炭労中執は妥結にあたって、

① 石炭情勢が重い。

② 資本の態度が固い。

③ 長期ストは無理。

④ 内部の力量不足。

以上の判断で妥結したといっているが、ほんとうにそうなのか。

われわれはいいたい。もっと大衆を信頼し、弱さの面は闘いの中で強化していくという指導性をどう進めるかである。

このような指導なくして、大衆の信頼をかちとることはできない。また、大衆の信頼なくしては、すべての闘いが幹部闘争に終り、幹部と大衆の分断を許すことになると思う。

このような立場から春闘の問題点をキチンと総括し、つぎの闘いにむけて頑張ろう。

春闘妥結に不満です

十六分会（本所）　武松輝男

「春闘が妥結、スト中止と妥結額が一方百七十五円である」という連絡を受けた。そのとき、耳を疑った。まさか炭鉱労働者の生活の実態を無視した低額の妥結はあるまいと思っていたからだ。

地域交流情宣や委員会報告では、炭労は不退転の決意で「満額獲得をするまでは闘いは止めない」ということであった。そうでなければ物価高で生活そのものが維持できない。だから不退転の決意を藁にでもすがる思いで信じてきたものだ。

炭鉱労働者の生活が、いまどれほど厳しいものか、もっと具体的に知ってほしい。

米にしたって、常日頃食べている『水晶米』が値上げになった。だからといって飯の量を減らすわけにはいかない。

労働の疲れをいやす一杯の焼酎も、酒税の値上げにともなって高くなるだろう。つらいことだ。タバコはすでに値上げになっているし、マージャンもパチンコも、六月から娯楽施設利用税が値上げになることで、パチンコ玉やマージャン卓の利用の値上げがささやかれている。しかし、こういうマージャン、パチンコは回数を減らすことはできる。だが、焼酎の量は減らせない。それほど日頃の労働の密度が高まってきていて、疲労が蓄積しているからだ。

子供には、せめて大学、高校をと思う。子供に残してやれる財産もない。だからせめて、と思う。その大学や高校の入学金や授業料も値げになった。

坑外の、三十五年勤続で、税込み十六万円の給料で、それこそ必死になって、目を血走らせながらやりくりしてきた。それも仁義を欠いたり義理をとどこうらせたりしながらである。それにも生活の上では限度がある。

焼酎の量も減らそう。マージャンもパチンコもやめてもいい。仁義を欠き義理をとどこうらせることにも耐えてもいい。しかし、それにしても百七十五円の賃上げはどうしようにも、炭鉱労働者の命の糧である〝米〟を減らすしかない。むごいことだと思う。

えっ……百七十五円、ケタが違いはせんな？

炭鉱社の人たちゃ、もう少し頑張ってくれにゃ俺たちはどげんなっとかね。

大牟田じゃ、どこもかしこも人減らしで働く者は少なくなり、働こうにも働き口がない。安かったちゃ食うためにゃ仕方がないと、お互いが足を引っ張り、ますます低賃金だ。

大きな組合におる人たちが、ちったあなんとかせにゃ…。組合ちゃあ何んかね。会社の代弁して組合員を説得するところかね。

話によると三井さんな選挙のときにばく大な金は使こうて、職員や従業員を作業現場じゃなく選挙事務所に繰り込んだげなが、仕事や保安はどげんでんよかったつやろかな…。

あんまり選挙に金ば使い過ぎて、しかも落ちらしたけん賃金ば上げらっさんとやろうかなあ…。

（この項、十一分会職場新聞『はぐるま』第百五十八号、五月十六日号から）

ある請負工の話

資料　10年間の春闘実績

年度	要求額（日）	妥結額（日）	妥結額（月）	妥結率
1974	2,550円	1,400円	28,981円	32.9％
1975	1,800	565	15,279	13.1
1976	1,320	392	11,596	8.8
1977	760	458	12,536	8.8
1978	650	168	9,218	5.9
1979	400	150	9,959	6.0
1980	470	320	11,679	6.7
1981	730	445	14,037	7.7
1982	680	444	12,897	6.3
1983	490	175	5,060	2.4

◎　本年度の月額算出は、175円に能率上昇分1.2851を乗じ、さらに標準出勤方数22.5方を乗ずる。

◎　妥結率は少数点2位以下は4捨5入。

今年の賃上げは、一日当たり百七十五円で妥結しました。タバコが四月からセブンスターで二十円上がり、二百円に値上げされました。一日当たりの賃上げでは、タバコ一箱も買えないのです。

日本経営者団体連盟（日経連）は十二日の総会で、大槻会長が「今年の賃金交渉の結果をみると、アップ率は平均四・三六パーセントで、昨年より二・五ポイント低下した。これは理想的な水準とはいえないが、賃金決定の正常化にようやく第一歩を踏み出したものということができる」と述べ、当初の狙い通りベースアップ抑制に成功したと総括しています。

また、「全民労協のおかげで交渉がうまくいった」と春闘勝利宣言まで出しています。今年が抑制の第一歩で来年からも引き続き、さらに低額の賃上げに抑え込もうとしています。同盟も十二日、「極めて不満足なもの」と敗北を認めています。

〝全民労協〟では生活守れぬ

係員も怒る今年の賃上げ

大企業は、この不況の中でも空前の利益を上げているのですが、労働組合側がストをやるとか、構えるとか、闘うつもりがないのに金を出すほど経営者は甘くないでしょう。

こんなことを許していたら労働者、国民の生活はますます破壊されます。このことでも全民労協が果たす役割がいっそう明らかです。現場の係員も掲示を見て、「百七十五円で、腹の立つなあー」といっています。

（十二分会職場新聞『あおぞら』第百九号、五月二十五日号から）

◈　◈

時のことば

平和行進

核兵器廃絶を訴えて一九五八年に始まったもので、今年は原水爆禁止世界大会準備委員会が主催、一九六三年の原水爆禁止運動の不幸な分裂以来、二十年ぶりに統一平和行進となりました。

五月七日東京・夢の島の第五福竜丸展示館前から出発、十一都府県を経て八月四日ごろ広島市に入ります。また、広島→長崎の行進は七月六日広島を出発、八月八日に長崎の世界大会に合流します。五項目のスローガンには「日本を核基地にするな」も含まれています。（連合）

＊　＊

なかま

一分会（四山）

今村俊男さん

○…今村さんは昭和二十一年二月四山鉱へ入社。以来三十六年の坑内労働者のベテランとは、その温顔からはとても想像できない。あくまで柔和な紳士風である。「……坑内の労働条件は厳しい。保安の面でも、働く者同志が、規則違反は絶対にやらせない、やらないという自覚をもって……」と、仕事の話になるとすごい説得力をもつ。

○…今村さんは根っからの活動家。三池闘争の以前から地域分会の役員をやり、闘争後も中央委員、地域分会長、PTA役員など数えるときりがないほど。いまも四山鉱の安全推進委員、地域分会長として、その行動力は高く評価され、組合員から信頼されている。

奥さんの百合江さんも負けず、おとらずの活動家で、主婦会の役員や三池労組の婦人部長をつとめ、夫婦おしどりのリーダーマンである。

○…たまに釣りに行くのが趣味だという今村さんだが、若いころは四山鉱の野球選手で、名遊撃手として鳴らしたものだ。今では腹が出っ張ってどても想像できないが……おっと失礼。「お酒」の方は「毎日ちびりちびりが楽しみ」とのことだが、本当かな？

今年いっぱいで定年退職。定年後も持ち前のねばりで、社会主義をめざす運動を元気でやることだろう。

（左藤臣芳・記）

今村さんは、大牟田市四山町56四山社宅44棟で、奥さんの百合江さん（天領病院勤務）、長男は東京に就職、二男と長女が在学中、それに両親の6人暮らし。

あほンだら

芝岡如友衛